

九、荒木増吉氏の風格

荒木さん

貴方が逝去されたのは、昭和四十五年二月七日でありました。奇しくも四年前の同じ二月七日には、貴方と格別御親交のあつた津島寿一先生が逝くなられております。丁度その日、私共の家族は、津島先生の仏前にお参りして帰つた直後、貴方の計報に接しました。それが私共にとつて全く突然であつたことと併せて、一時はみずからの耳を疑つた程でありました。しかし、やがて、それはどうにも動かし難い事実であることを認めざるを得なくなつたのであります。

荒木さん

貴方は柔和で控え目な態度で六十七年の生涯を終始されました。貴方の一生は、誠実と勤勉、感謝と奉仕で貴かれた傑作の生涯であつたといえましよう。多くの偉人がそうであつたように、貴方は学歴や門閥に恃むところなく、全く自主独立の精神と不撓不屈の努力でその生涯を武装さ

れ、しかも大きい成功を収められました。また多くの善良な人がそうであったように、貴方は、敬神崇祖の念慮に篤く、みずからを持するに厳しく且つ謙虚であり、人に接して親切且つ篤実でありました。更に貴方は、社会と公共に対する関心と奉仕の念に強く、数々の公共福祉の施設に援助の手を差し延られ、多くの人々から深い感謝と尊敬を受けられました。かくて貴方はまことに得難い、貴い生涯を生き抜かれたと申すことができます。

荒木さん

さればこそ、貴方は、香川県人でありながら、その行動半径は、はるかに県境を越えておられました。貴方は、百十四銀行の人でありながら、その関心は、政治や教育、宗教や文化に及んでおられました。貴方は、俗界に身をおかれながら、その精神は常に厳しい倫理の境を彷徨されておりました。かくて、貴方は、香川県境を越える行動を通して、香川県の発展に大きく寄与され、百十四銀行の枠を超える奉仕を通して、同行の信用と声価に至大の貢献をされ、俗念を超克されることによつて、諸々の人間関係の確執に調和と平和をもたらされた方でありました。

荒木さん

貴方の六十七年の生命は、決して永いとは申されません。しかし、「山高きを以て貴しとせず」といわれております。貴方は、六十七年の間に、この世で為すべき一切のことを為し遂げられた

と申すことができます。貴方は、何の苦痛もなく、眠るが如くに帰幽されたと聞きます。まことに宜なるかなであります。貴方は、いわば、完璧の生涯を生き抜かれたのであります。貴方の遺徳と遺蹟は永く私共後進の道標となり、欽慕の的となることでしょう。どうか安らかに眠りください。